



# かけ橋

秋田県立能代支援学校

No. 77

令和3年2月26日(金)



## 転禍為福

教頭 伊藤 登美子



今年はいつになく大雪に見舞われましたが、ようやく春の気配が感じられる季節となりました。

この1年を振り返って見ますと、新年度が始まって早々に臨時休業を挟むこととなり、いつもの年とは全く違うスタートとなりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、日常的にマスクを着用し、手指消毒や健康観察を徹底する、ソーシャルディスタンスを取る、密集を避けるために集団の単位を小さくし、行事等は中止したり分散して実施したりするなど、学校にも新しい活動様式が求められました。地域支援に関する取組に関しましても、例年であれば4月当初に各幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校にお邪魔して担当者や業務の紹介等をさせていただいていたのですが、資料を送付させていただくに止め、巡回相談も夏休み明けまでは控えさせていただきました。一堂に会して開催する研修会等も見直しを図らざるを得ず、初の試みとしてミニセミナー「こみっと」を4回実施しました。その名のとおり、こじんまりと、そして関わり合う(commit)研修会です。毎回3、4人の先生方に御参加いただきましたが、テーマに沿って少人数でじっくり語り合う機会の提供は参加者に好評で、ピンチをチャンスに転換できた取組だったのではないかと自負しております。

また、三密を避けるために学校間交流もなかなか実施できませんでしたが、小学部の児童が向能代小学校の児童の皆さんとリモートでやり取りをしたり、学年ではなく学級単位でオリエンテーリングをしたりした今年度の取組は、今後の交流のもち方のバリエーションを増やすことにつながったのではないかと感じています。居住地校交流は、21名の児童生徒が11校の児童生徒の皆さんと交流させていただきました。このコロナ禍の中にあっても、交流を受け入れてくださった地域の学校の皆様に改めて感謝申し上げます。

来年度もコロナ禍は続くものと思われます。今は人と人との物理的距離を保つことが必要なときではありますが、これまでのつながりで得られた心の距離は離さず、今年度実施した新しい地域支援や交流の在り方を手掛かりとしながら「転禍為福」の言葉のとおり、本校の児童生徒、地域で特別な支援を必要としている児童生徒の幸せにつながっていくよう取り組んで参りたいと思います。

## 「誰もが学びやすい授業、過ごしやすい学校生活」

能代山本地区高等学校特別支援隊研修会 会場：秋田県立二ツ井高等学校

今回は、二ツ井高校のユニバーサルデザイン化された授業の参観（1年・世界史A、3年・現代文B）と、二ツ井高校と能代高校の特別支援についての実践紹介を行いました。高校の授業提示は初の試みでしたが、授業の随所に参考になる配慮があり、参加者から大変好評でした。

～参加いただいた先生方の感想～

### 授業参観について

- ・教師の口調や言葉選びが柔らかく、発言しやすい雰囲気づくりがされていた。
- ・学習サポーターとの役割分担ができていて、生徒一人一人まで言葉掛けがなされていた。
- ・教科書に合わせたプリントや視覚に訴える資料等、生徒の興味関心を高めていた。

### 実践発表について

- ・入学前面談や中学校連絡協議会等の学校独自の取組を知り、参考になった。
- ・気になる生徒への支援だけでなく周囲の理解が大事。学級作りの大切さを改めて考えさせられた。

開催にあたり、たくさんのご協力ありがとうございました。





## 個別の配慮を引き継ぎましょう

教育専門監 小笠原 英紀



特別な支援が必要な子どもが、就学や進学または進級に伴う環境の変化により、学習面や生活面で困難が生じたり、困難さの状況が変化したりする場合があります。

子どもが就学先や進学先で、または進級した時に、困らずに、学びやすく、過ごしやすい生活をしてほしいと願うのですが、子どもに合わせた配慮の仕方を知っているこれまでの教師（保育士）だけができて、そうでない教師（保育士）はできないとか、それが一時的にしか実践されない、または引き継がれないといった状況であれば、子どもにとっても保護者にとっても不安であり、負担であり、保護者は子どもの困難さを目に見ると、これまでの支援は果たして意味があったのかとさえ、疑問に思えてしまうかもしれません。



新しい環境でも、そうしてくれると助かる配慮を教師（保育士）がすれば、子どもや保護者は安心して過ごせますし、信頼関係を築くことができるでしょう。そのためにも、学校・保育所等においては、日頃から保護者との日常的なコミュニケーションに心がけ、保護者の理解のもと、就学先や進学先へのスムーズな引継ぎができるようにしましょう。

引継ぎに際しては、口頭による申し送りだけでは、その後の確認が難しくなることから、書面での引継ぎが望ましいです。また、その内容は、困難な状況を伝えることにとどまらず、どうすればできるかといった配慮の仕方を伝えることが大切です。



書面による引継ぎの例としては、「就学支援シート」（幼保→小学校）、「個別の支援計画」「個別の指導計画」（幼保→小学校→中学校→高等学校）、各校園独自の「引継ぎシート」や「連携シート」（幼保→小学校→中学校→高等学校）、そして、自分自身について記載する「わたしのトリセツ」（高等学校→進学先・就職先）といったものがあります。

## 新たな試みによる向能代小学校との学校間交流 ～ 小学部 ～

### ■出前授業【6月】■

プレゼン資料を作成し、向能代小学校の先生に授業で活用してもらいました。児童の特性に焦点を当て、「こうだったら一緒にできるね」「こうやってくれたらうれしいな」



出前授業資料より

等、期待する行動を中心に資料を作成しました。

### ■ロボタンクによる交流【11月】■

ロボタンクをiPadで操作し、リモートで向能代小学校の友達に招待状を届けました。ロボタンクが動くたびに、画面の向こうから「もっと前に!」「頑張れ!」等の声援が聞こえ、お互いに交流へ気持ちが高まりました。



ロボタンク操作中!

### ■直接交流【11月】■

これまでの学年での交流を学級に分かれて2回行いました。

グラウンド周辺でのオリエンテーリングでは、手話を覚えてきてくれたり、目線を合わせてから話し掛けてくれたりと、出前授業の効果がばっちり見られました。



“サイコロどうぞ”

これからもうよろしくね!

## ☆今年度も センターの機能のたくさんのご活用ありがとうございました☆

教頭 伊藤登美子 教育専門監 小笠原英紀 地域支援主任 船山真生

TEL 0185-55-0691

FAX 0185-55-0681

ホームページ <http://www.noshiro-s.akita-pref.ed.jp>

E-mail [noshiro-s@akita-pref.ed.jp](mailto:noshiro-s@akita-pref.ed.jp)

地域支援に関する詳しい情報は本校ホームページをご覧ください。